

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0491500021		
法人名	社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会		
事業所名	鹿島台支所 グループホーム 和楽路		
所在地	宮城県大崎市鹿島台広長字尻掛杉ヶ崎7-1		
自己評価作成日	平成24年1月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0491500021&amp;SCD=320&amp;PCD=04">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0491500021&amp;SCD=320&amp;PCD=04</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年2月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1. 面会及び季節の行事、又年4回家族報告会時ご家族様との密な繋がりを得る為のコミュニケーション作りを行っている</p> <p>2. 和楽路だよりを月1回作成行事やボランティア様の支援等の様子を伝えている。</p> <p>3. 運営推進会議を中心として地域密着型の基盤を大切にしながらいつでも地域の方々、また行事等にはご家族様が参加出来る体制作りを行っております。</p> <p>4. 和楽路を多く知って頂く為にホームページを活用して和楽路の最新情報を掲載している。</p> <p>5. 総合防災訓練を年3回行いその際は地域の方々に応援して頂きながら更なる地域密着を図っている。防災訓練のない月は図上訓練を行っている。</p> <p>6. ボランティアさんとの繋がりを多くもちインフォーマルな資源を活用している。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>JR鹿島台駅近くにあり、大崎の田園風景が一望できる高台に位置している。「家庭的な環境の下で健康で地域の方との交流を行いながら、その人らしく楽しく過ごす事ができる」という理念と施設の方針を全職員が共有し、地域との交流を大切に考えた支援を行っている。家族アンケートからも職員の柔軟な対応とサービスに満足していることが読み取れる。町内会に加入し、情報の受発信できる体制があり、民生委員を通じ地域住民とお茶会を行ったり、夏祭りや小学校の運動会などに参加している。ボランティアの協力も多く、読み聞かせや音楽ボランティアは利用者が楽しみにしている。看取りに関しては、医療連携体制を整え安心して終末を迎えられるようにしている。夜間想定防災訓練は近隣の支援体制が出来ており、職員は常日頃から図上訓練を行い緊急対応に備えている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者グループホーム和楽路 ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度は理念を見直しを行う為の話し合いましたが昨年変更したばかりなので、今年度は継続して行くよにしました。また、管理者と職員が理念を共有しながら個人に合った支援や個人の尊重、尊敬を大事にした関わりを持っている。理念、方針は事務室に掲示し、統一事項等については、ホーム会議等に話し合いを行っている。	毎年職員全員で理念と施設方針を確認している。今年の理念は「家庭的な環境の下で健康で地域の方との交流を行いながら、その人らしく楽しく過ごす事ができます。」とあり、地域交流を大切にしお茶会などを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「地域の秋祭り、ボラ様のコンサート」に参加「子供神輿、保育園児の七夕飾り」来所。お茶会時は地域に回覧板また、独居、日中独居の方には民生委員お願いして封書でお渡年4回のお茶会を開催し、ホームにお招きしお抹茶、上生菓子頂いた後、対話や踊り、昔話をしながら交流を図っている。	町内会に加入し、地域の夏祭りや小学校の運動会等に参加している。事業所の夏祭りには家族や近隣の参加協力がある。図書ボランティア、音楽ボランティアなどの来所が利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には、「夏祭り」等の案内をエコープ等に掲示したり、回覧板にして種々の行事に参加して頂いております。また、防災訓練を消防署、地域の皆様と実施し、注意すべき事等を伝えて理解をして頂いております。また、今回は震災を通して地域の方、民生委員の方をお招きして防災訓練後「緊急時の対応。AEDの取扱い方」の研修も合わせて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議規程を作成し年6回、22年度から10名の構成員、日々の生活の様子、事業報告、質疑の回答、応答して頂き、質の向上に努めております。今年度は未曾有の震災もあり、地域との連携の大切さや、地域との関わり方をどうするか次年度マニュアル化して勧める方向で話し合いを行っています。	メンバーは、利用者と家族代表・民生委員・区長・行政関係者・高齢者部会（民児協）・地域包括職員・管理者で年6回行っている。震災時に遠い家族への連絡が難しかったことから、ネット環境の充実の提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保健センターに解らないところは電話にてお聞きしたり、訪問したりしております。また、総合支所には鉄板、ポップコーン製造機等を借用するなど、サービスの向上に努めながら連携を図っております。	介護保険、その他のサービスの相談をしている。施設の催事に支所の応援を得ている。鹿島台総合支所保健福祉課の職員が外部評価に同行している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	絶対に鍵をかけないケア等、倫理綱領を基に「身体拘束ゼロ」を行っており、職員も正しく理解し、徹底しておりますので、身体拘束は行っておりません。	日中は施錠しない。外出傾向の強い人は常に職員が気をつけており、出かけたなら同行する。地域の方からの連絡体制もある。身体拘束の研修を行い拘束をしないケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域の行政区に入って、民生委員、行政班長、区長、長寿会会長等から常時協力を得るシステム作りを行っております。職員も周知徹底しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の生活を守る為に、月1回及び随時、ホーム会議等を開催し2月初旬に再度学ぶ機会を設け「成年後見制度」について研修をホームで行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時及び退所時には、十分な説明を行い、納得して頂いてから書類に署名、押印をして頂いてから契約、解約を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員の中に、ご家族代表の方も参加して頂き、意見を反映しております。安心相談員2名が年に3回来所され、入居者の意見等を聞いていかれます。	家族の意見要望は年4回の家族報告会で聞いている。家族から利用者の転倒予防対策に機能訓練用の用具作成の提案があった。大崎市から安心相談員が年に3回来所し利用者の意見を聞いている。第三者委員は2人に委嘱している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議を月1回開催し、緊急時等には、随時ホーム会議を開催し、また、連絡簿とは別に連絡帳を常時置き、スタッフがいつでも提案できる場を作っております。意見箱は、ご家族様用、スタッフ用を設置。来所時要望等をお聞きしております。	家族用と職員用の意見箱を設置している。職員の相談や提案は月1回の全体会議、日々の連絡簿などでいつでも提案できる場がある。実際に忙しいときの体制の強化などが行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、気軽に話せる雰囲気作りに努めております。また、年2回、自己評価を職員に記入してもらい、管理者、係長、副支所長、支所長が評価を行っております。また、新人職員に対しては2w位新規採用日誌をつけていただいております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議後や、ホームに役立つコラム等を全スタッフに配布し、支援の質に努めております。今年度は計画を立案しましたが震災等の関係で研修センターでの実践者研修や種々の研修が数名の方しか参加できませんでした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、協議会主催の研修会には参加出来る体制作りを行入りましたが、震災等の影響で研修が少なく参加する事ができませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に不安と混乱の中で生活して頂いている方については、傾聴し、安心して頂いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後2週間は暫定プランを作成また、毎日生活状況を記録し、その都度、ご本人様、ご家族様が不安にならないように連絡を密に取っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の意向を伺いながら、必要としているサービスを見極めた対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お料理や洗濯物を畳んで頂くなどの場面作りを行いながら、入居者様に教えて頂き、支えあう関係作りをしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来所時は、お茶を提供したり、情報を共有する為、随時、電話等や面会時にお話しをして一緒にご本人を支えて行く関係作りを築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特にお誕生会の際には、ご家族様等の方々に参加して頂き、また、ボランティア様をお招きして子供達や親戚の方が気軽に訪れて頂ける様な雰囲気作りを行っております。	歌謡コンサートやヴァイオリンコンサートなどに出かけている。誕生日や法事に家族と出掛ける事もある。大崎市の互市は馴染みの人達と会えることから利用者は楽しみにしている。美容室への送迎支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切に、プライドを傷つけないような支援に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な情報等を提供する際は、いつでもご相談できる体制作りを行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望等にお応えし、馴染みの家具や、写真等をお部屋に飾るなど、楽しい雰囲気作りに努めております。	利用者の生活歴を大切に、新聞購入など以前の生活の継続に努めている。利用者の思いや要望などは静かにゆっくり聞きその人の思いに応えるようにしている。自宅に帰りたい希望がある場合には対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを活用しながら、その方の生活環境に合った関わり方を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員10時にバイタルチェック(検温、血圧)を行い、入浴のある時は入浴前に再度測定を実施し、当日の健康の指針としております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様、スタッフと話し合いながら、作成しております。	個別に 短期・長期目標をたて年4回評価を行い、利用者・家族・職員と話し合い見直しをしている。見直したプランは家族に同意を得て控えを渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿に生活の様子、健康状況、また、月1回の所見時にケアプランに沿った記録をしています。また、月1回、ご家族様へ生活の様子や「和楽路だより」を送付しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の個々人の要望に合わせてながら支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時の状況に合わせてながら、民生委員、地区のボランティア様、消防署等のご協力を頂きながら、防災訓練、行事等を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々人のご希望に沿って、かかりつけ医を決めております。	希望するかかりつけ医を受診している。定期通院は基本職員が付き添うが緊急通院には家族も同行してもらっている。診療結果は家族に電話や生活記録にて報告している。看護師は月2～3回健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師(兼務)が時々巡回に来て、入居者様の健康管理に携わっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、看護師、管理者、医師と長期入院になる場合は話し合いを行い、どうしてもホームへ戻れない時は、次の入所先が見つかるまで支援を続けております。また、ホームでの生活が出来なくなる事も鑑み、特養施設への入所申込みをして頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、「ターミナル時の意思確認」を取り、身体低下時は、再度確認をしております。また、「ターミナルケア」に近づいた時は、ご家族様、医師との連携をしながら行うシステム作りを行っておりますがまだ一度もホームでの看取りケアは行っておりません。	「看取りに関する指針・同意書」と「ターミナル時の意思確認」を作成し入所時に同意を得ている。状況に応じてターミナル時の意思確認をその都度行う。看取りのケースはまだないが、職員の中には経験者もいる。医療連携が出来ている事から看取りは可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が「救急救命」に資格を取得し、「AED」の使用法、また、防災訓練時には消防署員から防災に関する研修や、消火器の使用法を実践しております。また、人材育成の中にも「救急救命」についての計画を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、防災訓練を実施し、また、応援体勢として地域のボランティア様、民生委員、消防団との連携が取れる様にマニュアルを作成しております。今年度は年3回実施し、図上訓練を訓練のない月に全スタッフが行っております。	避難訓練は夜間想定を含め年3回行い、訓練の無い月は図上訓練を行い災害に対する対策を職員に徹底している。町内会、消防団などの協力もあり、緊急の場合は近隣の支援体制も出来ている。消火器・火災報知器の点検と10日分の備蓄がされている。	「和楽路」独自のマニュアルを作成し、より一層の防災体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保の為に、勉強会等も随時実施しており、耳で声掛けをしたり、他者に漏れないような配慮を行い、記録等を置く場所についても、鍵をかけております。	利用者の希望に合わせて名前では呼んでいない。入室する時は必ず了承を得ており、利用者のプライバシーを大切にする支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何度も同じ話をする方については、傾聴し、思いを共有する事により、落ち着いて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分でお部屋で過ごしたい時などは、決まり事や都合を優先することなく、その方に合わせた支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々人に合わせたカット、パーマ、毛染めを行い、その人らしい生活が出来るよう支援しております。カット、パーマ、毛染め等は近くの美容院にお連れし、また、出張理髪もして頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭き、お膳拭き、また、簡単な食事作りをして頂いたり、食事の際は、皆さんで作った料理の話題を交えて、楽しく頂いております。	メニューには利用者の意見を取り入れ、時には自作の野菜・米が食卓にのぼることもある。法人の管理栄養士に指導を受けている。配膳・食事などは利用者と一緒にいき家庭的な雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日連絡簿に水分摂取量チェックを行っており、また、献立表はスタッフが季節や行事に合わせて作成し、作成した献立は園の管理栄養士にチェックして頂いております。また、偏食のある利用者様には代替食をお出し、また、きざみ食、補食等も提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの仕方は、個々人によって違いますが、飲食物の工夫や声掛けなど、その方にあつた支援を毎食後に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄チェック表」をつけて排泄パターンを把握し、仕草等を観察しながらトイレ案内を基本としております。日中は9人全員がトイレ使用です。	トイレは2人に1ヶ所ある。排泄パターンを把握し昼夜、こまめにトイレ誘導を行っている。病院から移って来た方でオムツから自立へと改善された例がある。トイレの表示もわかりやすく工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時の献立に繊維質の食物や乳製品などを取り入れるなどの工夫を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態(高血圧等)に合わせて入浴して頂いておりますが、毎日入浴希望の方もおります。また、利用者様のご希望に応じて、日中、夜間入浴を行っております。	入浴は毎日可能だが、2日に1回の支援が多く、希望の時間で対応している。入浴拒否をする人はいないが、渋る人には時間をずらしたり、声掛けに工夫をしている。同性介助を希望する方には対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人に合った起床をしております。また、どうしても皆さんと一緒に食べれない時などは、食事時間を遅らせて召し上がって頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬説明書」は各利用者様の生活記録に綴り、通院時に役立てております。お薬箱にも入居者様が服用している薬の名前や効能を貼り使用しております。また、服薬の際には、スタッフが入居者様のお名前と日付を声に出して確認し、服薬をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様からの外出の申し出がある際は、極力出かける機会を作って外出したり、ご自分で食事を作りたい時は、気軽に来れるような環境作りを行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様と一緒にドライブを兼ねて外出したり、また、外に出たい入居者様がいらっしゃる時は、スタッフが寄り添いながら支援しております。	日常的には近くのスーパーや衣料品店に買い物に出かけている。また、市内一周ドライブや白鳥見学、一番の楽しみとなっている互市への外出支援を行っている。車イスの方は車イス対応の車で外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方については、ご自身で管理出来る金額を所持して頂き、食材を持って来る業者の方に、ご自分の食べたい物を注文し、ご自身で支払いをして頂いております。また、外出時に自分で好きな物を購入して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望等に限らず、状況等に応じて、通院結果や外出でのご様子等を連絡しており、その際は、入居者様にも電話でお話して頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作り出す為に、季節に合わせた装飾を行ったり、玄関や日本間には、入居者様で以前に生け花の先生をしていた方がいらっしゃることもあり、ご家族様と一緒に生けて頂き、入所前の記憶を思い出して頂けるよう支援しております。	広いリビングには食卓テーブルとソファ、和室には堀こたつ、居間には行事の写真、絵、生け花が飾られ家庭的な雰囲気がある。共用空間は、温度計・湿度計・加湿器などで部屋の環境を整えている。リビングから広い木製デッキに出られることから気分転換ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一画にソファを設置し、入居者様同士やスタッフと談話出来るスペースがあり、また、食事の際には、入居者様同士での会話のしやすい方との席を配置するなどの配慮をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時、ご家族様及び入居者様とお話し合いをしながら行っております。また、ご自宅より馴染みのタンスや仏壇などもお持ちして頂いております。	転倒防止を考えて全室畳敷き和室になっている。ベッド、整理たんす、洗面台、エアコン、ナースコール、懐中電灯、防災頭巾などが設置されている。家族の写真やテレビ、お人形等、馴染みの品が置かれ居心地良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、台所、トイレ、浴室等にさり気ない表示をしております。		